

京大ジュニアリサーチャー倪卉さんの解説で学ぶ

中国四大名著のひとつ『紅樓夢』の楽しさ



皆さん、『紅樓夢』という中国の長編小説をご存じでしょうか。『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』と並ぶ『中国四大名著』で、清朝中期乾隆帝の時代（18世紀中頃）に前半80回分を曹雪芹（そう・せつきん）という作家が、後半40回分を高鶚（こう・がく）という作家が書いたとされています。ただ、この時代にはめずらしく話し言葉で書かれたため、庶民の間に広く広まりました。中国の源氏物語とも呼ばれます。

物語は上流階級の賈氏一族の貴公子である主人公賈宝玉、繊細でプライドの高い美少女の林黛玉、良妻賢母型の薛宝釵の三角関係を軸に展開しますが、そこでは清朝時代の上流階級の生活の細部を描かれ、主人公たちの交情が克明に描かれます。毛沢東も愛読したと言われています。

今回お話をさせていただく倪卉さんは、現在、『日中友好新聞』で「12人の美女と日常用品、食べ物から語る『紅樓夢』」とのタイトルで「紅樓夢」の紹介記事を連載中です。北京市出身の若い中国人女性の目から、この「紅樓夢」の魅力を語ります。

学習会ではビデオを使ってビジュアルに説明していただきます。

2020年11月9日(月) 18:30- 参加費 500円

三田いきいきプラザ集会室 A(都営三田駅 A9 出口からすぐ)